あとがき

現在、離島や本島北部に住むがん患者さんは、多くの方が本島中南部で治療を受けています。確定診断、病期の決定、手術、化学療法、放射線治療といったさまざまながん医療の過程で、航空機や船舶、車を乗り継いで本島中南部の医療機関を受診しています。

その一方、胃がん、大腸がん、肝細胞がん、胆のうがん・胆管がん、膵臓がん、肺がん、皮膚のがん、乳がん、子宮がん、前立腺がんなどは、八重山病院、宮古病院、北部病院、北部地区医師会病院で治療が完結できます（放射線療法をのぞく）。また、離島や本島北部の診療所でも、経過観察や症状緩和など、できることはたくさんあります。

これまで、このような情報の提供が、がん患者さんやそのご家族に対して、十分には行われていない現状がありました。また、「地元で治療ができるということや、経過観察ができるということを知っていれば、地元で医療を受けたのに…」という、がん経験者の方からのご意見もいただきました。

もちろん、本島中南部の医療機関で診療を受けるのもよいですし、がん医療の均てん化と同時に、集約化も今後はますます重要になっていくと思われます。

しかし、いま、第一に必要なのは、住み慣れた地域の医療機関で精密検査や治療を受けられる可能性についての情報を、がん種ごとにきちんと伝えることだと考え、その一歩として、本書を刊行いたしました。

これまでこのような試みはなく、手探りでの情報収集と執筆だったため、不十分な点が多々あるかと思います。そのような中で、本書の刊行の意義をご理解いただき、快く情報提供と刊行の承諾をしていただいた多くの医療機関の方々に、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。また、貴重なご意見をいただいた多くのがん患者会やがん患者さん、ご家族、ご遺族のみなさまにも、心より感謝申し上げます。

私たちは、本書を県民のみなさまと一緒に育てていきたいと考えております。そのためにも、ご意見を直接私たちにいただければ幸いです。

本書が、離島や本島北部にお住まいのがん患者さんとそのご家族のために、少しでもお役に立てますことを、祈念しております。

琉球大学医学部附属病院 がんセンター長・診療教授
増田 昌人

主な編集協力者

新城純（八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会会長）
真栄里隆代（ゆうかぎの会＜離島におけるがん患者支援を考える会＞会長）
森英毅（沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属座間味診療所所長）
瀬尾卓司（沖縄県立八重山病院 血液・腫瘍内科医師）
埴岡健一（東京大学公共政策大学院 医療政策教育・研究ユニット特任教授）
東尚弘（国立がん研究センター がん対策情報センター がん臨床情報部長）
天野慎介（一般社団法人 全国がん患者団体連合会理事長）
渡邊清高（帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科准教授）
又吉未央（琉球大学医学部附属病院 がんセンター）